

# 森林やまがた

No.116

2008.7



参加者全員で県民歌「最上川」を斉唱



植樹を終えて記念撮影



知事から感謝状の贈呈



森づくり活動に精を出す参加者達



丸太切りを体験



多数の参加者で溢れる会場

## 目次

「やまがた森の感謝祭2008」が開催されました……	2
みどりのページ	
開催行事の実績報告……	4
合成フェロモンによるナラ枯れ対策……	6
元気な村山地域の森づくりボランティア活動紹介…	7
普及情報	
林業技術現地適応化事業から……	8
『地元の無垢材でこだわりの家づくり研究会』の活動…	9
吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業……	10
森の人紹介	
・舟山 功さん ・鈴木悦郎さん……	11
フロント80による森林整備について……	12
長坂(新庄市)予防治山工事完成……	13
二日町(大蔵村)なだれ防止林造成工事……	13
校庭樹配布事業・ふれあい森林教室助成事業を実施…	14
山形県の古木・名木……	15
公共木造施設……	15
おきたま「癒しの森」体験事業(第2報)……	16
第4回全国山菜文化事業祭が西川町で開催されました…	17
丸太価格の推移……	18
製材品価格の推移……	18

# 『008』が開催されました ～る新たな森づくり～

山形県では、六月の第一土曜日を「やまがた森の日」と定め、県民みんなで支える森づくりの普及啓発を行っています。

今年六月七日に、遊佐町にある「森の公園遊ぼと」で、約九百名の県民の皆さんの参加のもと、「やまがた森の感謝祭二〇〇八」を開催しました。

この感謝祭は、森の恵みに感謝するとともに、森林をはじめとした自然環境を守り・育てることの大切さについて、県民の皆さんに広くPRするために開催しているものです。



あいさつする齋藤知事

当日は、庄内地方の中高校生で構成するマーチングバンド「鳥海ホープウイングス」の演奏で幕を開け、「山形県民の歌最上川」の斉唱、続いて主催者を代表し、齋藤知事が、今年一月に制定した「やまがた緑環境憲章」から「森は先人からの贈りものであると同時に、未来からの預かりものです。」を引用し、この公益の地である庄内のクロマツ林を県民みんなで守っていこうと挨拶しました。

式典では、森林・林業功労者への知事感謝状が、酒田市の山形県林業士、小田重四郎さんと遊佐町で海岸砂防林の整備に取り組む「砂丘地砂防林環



鳥海ホープウイングスのマーチングバンド演奏



新庄市みどりの少年団の活動発表

境整備推進協議会」に贈られました。続いて、緑の少年団の活動発表が行われ、昨年度開催された県緑の少年団活動発表大会で最優秀賞を受賞し、今年七月に福島県で開催される「緑の少年団全国大会」に出場する新庄市みどりの少年団が、学校林での森づくり活動やイバラトミヨの保全活動などの取組みを発表しました。また、NPO法人庄内海岸のクロマツ林をたたえる会の砂山理事長が、森林ボランティアからのメッセージとして、森づくりの取組みやその大切さを会場のみなさんに熱く訴えました。



知事から遊佐町緑の少年団に旗が手渡されました



ミス・インターナショナル日本代表から苗木の贈呈

# 『やまがた森の感謝祭2』 ～県民みんなで支え

その後、協賛団体である山形トヨペット(株)からヤマブキ五〇本と森づくり活動で使用されるヘルメット五十個が贈られ、緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の杉山さんから知事にヤマブキの苗木が手渡されました。続いて、知事から地元遊佐町緑の少年団の西遊佐小学校の子供たちへリレー旗が手渡され、県内の森づくり活動をリレー旗でつないでいく今年の森づくりリレーがスタートしました。

式典の最後に、「やまがた緑環境憲章」を遊佐町緑の少年団の稲川小学校の子供たちのリードのもと、参加者全員で声高らかに唱和し、クロマツ林に森づくりへの決意の声をこたえさせました。

式典後は、感謝祭初の取組みとして、総勢約五百名もの参加者による一斉森づくり活動が行われました。

その後、協賛団体である山形トヨペット(株)からヤマブキ五〇本と森づくり活動で使用されるヘルメット五十個が贈られ、緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の杉山さんから知事にヤマブキの苗木が手渡されました。続いて、知事から地元遊佐町緑の少年団の西遊佐小学校の子供たちへリレー旗が手渡され、県内の森づくり活動をリレー旗でつないでいく今年の森づくりリレーがスタートしました。



「やまがた緑環境憲章」を参加者全員で唱和

参加者は、十班に分かれ、各班のボランティアリーダーの指導のもと、一斉に会場周辺のクロマツ林の下刈り等の森づくり活動に取り組みました。参加者は、この地に植林をした先人に思いをはせながら、額に汗し、ニセアカシアの除伐などを行いました。小一時間の作業後は、各班の担当区域が劇的にきれいになり整備された様子を振り返り、皆さん、充実感にひたっていたようです。

会場では、ネイチャーゲームや木工クラフトなどの体験活動コーナー



森づくり活動に汗を流すみなさん

も設けられ、子供たちは思い思いに森の中の遊びを楽しんでいました。森に親しむとともに、「県民みんなを支える新たな森づくり」を象徴する内容が盛り込まれた今回の感謝祭でした。森づくりボランティアリーダーとして、また、体験活動等で指導にあたっていただいた皆さん、どうもありがとうございました。

〔県みどり自然課〕



木工クラフトを楽しむみなさん



子供たちに指導するボランティアリーダー



みどりのページ

### 開催行事の実績報告 緑の募金出発式と 緑のプレゼント

◆日時 平成二十年四月二十二日  
十二時三十分～

◆会場 文翔館前広場

◆緑のプレゼント ピンクの夏椿

(参加団体) 東海大学山形高校、県民の森森の案内人会、蔵王緑の騎士団、成澤グリーンフィールド協力隊、山形県緑を育てる女性の会、グリーンライフ女性の会、蔵王山岳インストラクター協会

◆街頭募金の実績額 十万八千円



東海大学山形高校生の募金活動

### 県民の森オープニング行事

◆日時 平成二十年四月二十九日

◆緑のプレゼント シャクナゲ黒潮  
今年の県民の森は、作谷沢地区と連携し豊かな自然と歴史文化に触れること、森林セラピー体験と普及など来園者の増加を目指します。

県民の森周辺森林については、山形市有林の外にも間伐や枝打ちなど整備の必要な林地も多くあることから、美しい景観と環境を保全するため企業や県民の参加による森林の整備も企画します。



みどりのプレゼント

### 源流の森オープニング行事

◆日時 平成二十年五月十一日

源流の森の新たな企画として、リニユールされた冒険の森エレメントの体験会、森の名人教室「またたび細工ざるづくり」など、地元の中津川地区と連携し様々な体験を用意し皆様の来園をお待ちしています。

◆緑のプレゼント 月桂樹(二百本)  
同時に開催された飯豊町制施行五十周年記念事業白河ダム湖畔マラソン大会の有森裕子ゲストランナーから苗木のプレゼントも行われました。



有森さんと緑のプレゼント

### 映画「森の学校」上映会開催

霊長類学研究の世界的権威である河合雅雄氏の少年時代の体験を映画化した「森の学校」の上映会が県内四カ所で開催されます。

上映にあたっては、山形県みどり推進機構の北村理事長を会長とする推薦団体からなる推進委員会を結成して普及啓発を図ります。

この映画鑑賞から、多くの子どもたちが森林体験の楽しさを知る機会となることを期待しています。

#### ◆開催日

・山形市 八月九日 遊学館ホール

・酒田市 八月十日 公益研修センター

・米沢市 八月三十日 置賜文化ホール

・新庄市 九月二十一日 市民文化会館

◆入場料  
一般前売 一千元  
小中高生 五百円

#### ◆上映記念講演会

八月九日

河合雅雄、北村昌美、武浪秀子氏  
による鼎談開催

(事務局 東北映音 023(641)3821)



みどりのページ

も積極的に取り組んでおり公民館駐車場などアクセス整備も計画しています。

長谷堂城跡の整備については、貴重な観光資源として山形市も積極的に取り組んでおり公民館駐車場などアクセス整備も計画しています。

### やまがた森のボランティア 連絡協議会 総会

◆日時 平成二十年五月二十一日  
◆場所 山形県みどり推進機構  
◆事業計画  
・森林ボランティア活動の支援  
・村山管内各市町に森林活動ボランティア団体結成などの支援

会長 西谷 壮一氏 留任  
副会長 山川 喜市氏  
事務局長 山田 完爾氏

◆講演会  
「東北の関ヶ原 長谷堂城合戦」  
講師 上山市立図書館長 片桐 繁雄氏  
来年のNHK大河ドラマとして注目が集まる直江兼統が攻略できなかった長谷堂城跡の歴史探訪と現地調査を行なうとともに、県みどり推進機構と地元との連携を深める支援活動として、さくら植栽を実施しました。



長谷堂城跡の視察

### 「花咲かフェアinさがえ」 緑化と木育イベント開催

最上川ふるさと総合公園で、緑化樹木の間伐材などの有効利用として「木工細工や木製遊具でこどもが木に親しむ体験」を開催します。

### ◆緑化フェア開催期間

六月八日～六月三十日  
○山形県みどり推進機構コーナー  
六月二十八～二十九日  
午前十時～午後三時

### ○体験内容

こまづくり  
昔遊び（独楽まわし、メンコ、竹馬のり、丸太切り体験）

### 木質ペレット・ボイラーによる サクランボハウス加温試験

◆日時 平成二十年五月二十九日  
午後一時～  
◆会場 寒河江市幸生地内  
東根市神町営団地内

### ◆研修の目的

二酸化炭素削減による地球温暖化の防止と原油価格の高騰による農業経営の安定対策として、さくらこみッション事業の研修課題「木質バイオマスボイラーによるサクランボハウスの加温効果」を検証しました。

灯油・重油と比較した燃料費の削減効果としては、木質ペレット燃料による営農経費の節減が明らかになりました。

### ◆灯油燃料と木質ペレット燃料代

燃料費は灯油の五〇%以下となることが実証されました。

### ◆品質向上効果

糖度計による測定結果は、ペレットボイラーの糖度が高かった。

今後の設備普及の課題としては、ボイラー設備の初期投資費に対する支援や助成を計画的に行うこと、燃料となる木質ペレット価格の安定策が考えられます。

〔助山形県みどり推進機構〕



金子農機ボイラー



山本製作所ボイラー

# 合成フェロモンによる ナラ枯れ対策

～新たな防除技術の確立に向けて～

山形県農林水産部 森林課

## 一 ナラ枯れ被害の状況

山形県内のナラ枯れ被害は、平成三年に旧朝日村で確認されて以来、継続して発生しており、庄内地方を北上する形で拡大しました。被害区域は、平成十六年頃から徐々に内陸部へと拡大をはじめ、十九年度は県内十七市町村で確認されています。

## 二 カシノナガキクイムシ

ナラ枯れは、体長数ミリの「カシノナガキクイムシ」(カシナガ)が病原菌の「ナラ菌」を伝染させることによりおこります。カシナガは、集合フェロモンを発して仲間を集め、一本の木に集中的に穿孔します。そして、カシナガは、ナラ菌の作り出す酵母をえさとして生活します。



ナラの立木を利用したトラップ

## 三 合成フェロモンを利用したカシ

### ナガの大量捕殺法の開発

平成十五年に山形県森林研究研修センターが参加するグループが、約十年の歳月を費やし集合フェロモンの化学的合成に成功しました。また、ナラ等の樹木が傷ついたときに放出するカイロモンにも集まることがわかりました。

これらの研究成果をもとに、平成十八年度に山形県森林研究研修センターがカシナガの大量捕殺法を開発しました。なお、この技術は新規性が非常に高いことから特許出願中です。

## 四 面的防除手法

年に約十数キロメートル拡大するナラ枯れ被害を抑えるためには、先端地に面的な防除エリアを作る必要があります。この大量捕殺法は、フェロモンがすでに蔓延している激害地では効果が小さいが、微害地など

では数百メートルの範囲からカシナガを集めることができ、既存の防除技術よりも広範囲な防除が期待できます。

また、防除手法としては、カシナガを捕殺するためにナラ林にはナラの立木にフェロモンを設置し、スギ林にはナラの丸太の井桁を設置する方法でトラップを配置し効果的・効率的にカシナガを誘引します。

なお、ナラの立木を利用するトラップには、あらかじめフェロモンを設置する立木と周辺の立木に殺菌剤「ケルスケット」の樹幹注入を行い、枯れの予防と穿孔したカシナガの駆除を行います。

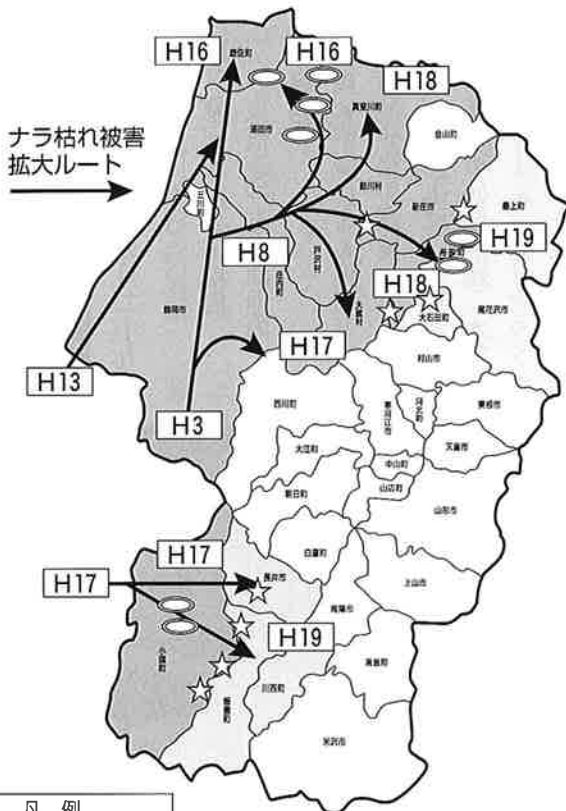
## 五 面的防除実証事業

平成二十年二月に、東北森林管理局と県が合同で「ナラ枯れ被害拡大防止対策検討会」を設置し、その検討結果を踏まえ、本年度は国有林八地区、民有林二十二地区にトラップを設置し、合成フェロモンを用いた面的防除技術の効果に関する実証試験を計画しています。

## 六 終わりに

山形県では東北森林管理局と連携し、全国に先駆け県森林研究研修センターが開発した新たな防除技術の確立とその実用化を早期に図るため、全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

## 面的防御手法実証事業 候補地



凡例	
被害継続市町村	
H19新規被害市町	

※各候補地はあくまでも予定であり今後変更となる場合があります。

# 元気な村山地域の森づくりボランティア活動紹介

村山地域では、県民参加の森づくり運動や、みどり環境公募事業をきっかけとして多様なボランティア活動が展開されています。今回はその中でも、元気な森づくり活動を行っている三団体を紹介します。

## ◆山形市子ども会育成連合会

未来を担う子供達に、やまがたのみどり豊かな自然を継承するため、昨年度、森づくり体験教室を「山形市少年自然の家」にて開催し、都市部の子供たちがアカマツの間伐と広葉樹の植栽を行いました。参加した子供は、「木を切るのは大変だったけど、楽しかった。この森づくりを通して、これからどんな森に育っていくか楽しみです。来年は後輩達にがんばってほしい。」と、エールを送っていました。事務局の小笠原知実さんは、「子供達が森づくり体験を通して、環境保全の意識が変わったことが感じられた。今後も継続して実施していきたい。」と、決意を新たにしていました。

## ★今年度森づくり体験教室

十月十一〜十二日実施予定



森づくり体験教室で植樹を体験する参加者達

## ◆東北芸術工科大学森づくりの会

建築に関係するゼミの学生が中心となり、東北芸術工科大学周辺で手入れの遅れたスギ林の整備を行っています。昨年度は建築の資材であるスギ材の性質を知るとともに、間伐材を活用したいとの思いから、間伐材の搬出を行い、学生ならではのアイデアにより、器、キャンドルスタンド、箸等の製作を行いました。



間伐材の活用のため搬出作業をする会員達

代表世話人の渡部桂さんは、「環境問題のイベント等で情報発信していきたい。」と、意気込んでいます。

## ★今年度 森林整備活動

七月下旬、十月上旬実施予定

## ◆女性のための生き物ネットワーク エコトーンやまがた

西川町大井沢地区を拠点に希少種のハツチョウトンボやアマゴイルリトンボ、ヒメギフチョウなどの環境保全活動を女性・子供参加型という新しい切り口で実施しています。ハツチョウトンボの保全活動では、自然観察会のほか湿地のヨシの刈払い、さらには観察木道の整備を自ら行っ



女性・子供参加型で実践される環境保全活動

ています。代表の武浪秀子さんは、「参加人数がまだ少ないので大変ですが、湿地のような不安定な環境は継続的な活動が今後必要です。」と、使命感をもって活動しています。

## ★今年度 湿地の保全活動、自然観察会

七月二十一日ほか実施予定

## ◆おわりに

今年度村山管内では、みどり環境公募事業に二十六団体が取組みます。皆様もぜひ、森づくりボランティア活動に御参加ください。

〔村山総合支庁森林整備課〕

# 「林業技術現地適応化事業から」 研究成果とその普及に向けた取り組み

◆林業普及指導事業では、試験研究成果を現地で普及するため、今年度から新たな課題に基づく「林業技術現地適応化事業」を行ってまいりますので紹介します。

## ●事業の概要

この事業は、試験研究成果を現地で効果的に普及するため、林業普及指導員自らが現地において研究成果に基づく技術を実践し、普及の進め方などについて検討するものです。

今年度から新たに取り組みの、現在森林研究研修センターで行っている研究の一つである「里山を利用したきのこの通年発生技術の開発」に基づく成果の普及です。この研究は、里山の広葉樹林で抜き切りした樹木をほだ木として、現地で多品種のきのこのを植菌し、春から晩秋までの季節を通してきのこを発生させるための品種の組み合わせと栽培技術を開発するものです。

## ●取り組みの目的

この課題の目的の一つは、きのこ栽培をグリーンツーリズムや体験学

習、森林オーナー制度など、山村をフィールドとした通年のプログラムの中に組み入れることで、山村の活性化を図ることです。もう一つの目的は、これらの体験プログラムにより里山広葉樹林の利活用を促進することで、森林としての健全な機能を回復させ維持していくことです。

現在、私たちの生活に身近な里山の広葉樹林の多くは、利活用の低下から高齢級の森林となり、林内は暗



利用されなくなった広葉樹林：枯れている木も見られる

い環境になっていきます。一本の木から株立ちした木が密生したり、枯れている樹木が目立つ広葉樹林も多く見られるようになりました。

## ●これまでの研究成果

現在、原木でのきのこ栽培ではナメコ、シイタケ、マイタケが主な品種となっていて、この組み合わせでの発生期間は春と秋の一時期となります。そこで、これら三品種のきのこに加えてブナハリタケ、ウスヒラタケ、ムキタケ、マンネンタケ、ヒラタケ、タモギタケ、エノキタケの七品種を選定し、これらのきのこの里山広葉樹林内の環境での発生期間や発生量、ほだ木としての樹種の適応性などの発生特性について調査し三季を通していろいろなきのこが楽しめる栽培方法を研究してきました。これまでの研究では、これらの七品種のうちブナハリタケ、ウスヒラタケ、ムキタケ、マンネンタケの四品種について、里山広葉樹林内での発生の特性がわかってきました。そして、これらの品種の組み合わせにより、一部断続的ではあるものの春から晩秋にかけて発生させることが可能となりました。

## ●事業の内容

今年度からの林業技術現地適応化

事業では、この研究成果をもとに、県内四つの総合支庁管内の現地（西川町大井沢、鶴岡市倉沢地内ほか）において林業普及指導員が中心となり、これら四品種について、現地実証のための栽培・検討を行います。残るヒラタケ、タモギタケ、エノキタケの三品種については引続き試験研究が行われ、発生の特性が解明され次第、四品種に加えて本事業での現地実証を行う計画です。



抜き切りした木を利用したほだ木

◆私たちの生活に身近な里山の広葉樹林やスギなどの人工林は、人が自然の法則に従い利用することで森林の機能が維持されてきました。

「自然力と人の知恵の融合」、このことが里山林を上手に利用していくためのヒントであることを、今改めて考える時なのかもしれません。

〔森林研究研修センター〕



# むらやまの「木」・「人」・「森」を活かす家づくり

## ◆はじめに

環境資源として重要な森林の機能を維持するには、間伐を実施し森林を適正な状態に保つことが必要です。また、地域材の有効活用は循環型社会の構築へ向けて重要な方法の一つです。

そこで、木材需要の八割が住宅資材として使われていることから、住宅需要を増やすことは地域材の利用拡大を図り、間伐面積を増やすことにつながります。このため村山総合支庁では、地域のスギブランド材である西山杉をふんだんに使い、地元地住住宅づくりに取組む「地元が無垢材にこだわりの家づくり研究会」の活動を支援しています。

## ◆「地元が無垢材にこだわりの家づくり研究会」について

地元地住の家づくりを目指し、地元職人たちが設立した組織です。

地域の山を知り尽くした森林組合と、山形の木材の特性を見極めてきた製材所と、山形の木を活かし風土にあった家づくりを探索してきた建築士と、山形の家づくりの技術を受

け継いだ大工職人がガッチリ連携し本物の山形の家づくりに取り組んでいます。



## ◆むらやまの「木」・「人」・「森」を活かす家づくり事業について

村山総合支庁森林整備課と「地元無垢材でこだわりの家づくり研究会」が協働で以下の事業を実施しています。

### (1)むらやま「木」・「人」・「森」を生かす家づくり出前講座

研究会と村山総合支庁が、これから家づくりを行う子育て世代が集まる施設（子育てランドあぐべ）で出前講座を行います。西山杉の木材標本を展示し、実際に見たり触ったり

しながら無垢材の良さを体感してもらいます。また、研究会が行っている森づくり・家づくりの実例や県の助成制度等を紹介して、様々な家づくりの疑問に答えます。

### (2)むらやま「木」・「人」・「森」を生かす家づくり体験

出前講座へ参加した人を中心に、川上である西山杉の産地（朝日町、大江町、西川町）での森林浴、製材所の見学、川下の西山杉が使われている住宅の見学などを行います。

参加者が実際に現地で、地域材の特性を熟知した製材所、工務店、大工等の話を聞いたり見たりすることで、地域の循環資源としての森林や木材、木と人と森の関わりについて学んでもらいます。

### (3)むらやま「木」・「人」・「森」を生かす家づくり活動のPR

林業まつりやエコフェスタ等のイベントで、西山杉の無垢材標本の展示や無垢材にこだわった住宅の相談会及び「地元地住」家づくり講演会等を開催します。

### ◆おわりに

村山総合支庁では平成十七年度から環境保全・循環型社会形成のためのプロジェクトで間伐材の利用拡大を推進しており、これまで講演会や住宅見学会、各種PR活動等を実施してきたことにより、研究会の会員が地元地住システムを活用した住宅を六棟建設してきました。今年度はこれから住宅を建てようとする若い世代に的を絞って、地元西山杉の無垢材の良さ知ってもらい、本物の山形の家づくりを提案します。

〔村山総合支庁森林整備課〕



西山材の無垢材をふんだんに使った住宅



伝統的軸組工法による木組みの家づくり

# 庄内地域から荒廃林を無くすために

〔庄内林業研究会〕

## ◆庄内林業研究会結成への経緯

近年の木材価格の低迷や高齢化などにより、森林に対する施業意欲が減退し、手入れが行き届かない森林が増加しています。

そこで、この地域から荒廃林をなくそうと平成十九年三月に山形県林業士会庄内支部のメンバーを中心とした二十二名で研究会を結成しました。メンバーは、これまで地区で活動してきた経験などを活かしながら活発な活動を展開しています。

## ◆森林整備推進に向けて

庄内林業研究会では、どのようにすれば、荒廃林がなくなるかを検討した結果、「間伐のやり方がわからないのではないか」、「整備すればすばらしい林になることを見せる必要があるのではないか」などの意見が出ました。

そこで、平成十九年度の取り組みとして間伐研修会の開催や展示林整備、優良林分の認証を実施し、少しでも森林整備が進むように活動を実施しました。



## ◆間伐研修会

森林所有者の森林整備に対する意欲を喚起することを目的として、間伐の必要性や低コストの間伐手法、優良材生産のための研修会を開催しました。

第一回は、収入間伐に視点をおいて、列状間伐と高性能林業機械を利用した搬出方法について研修を行いました。講師は研究会の会員が行い、

庄内各地から五十四名の参加がありました。参加者は、高性能林業機械の効率的な搬出や列状間伐の有利点などに興味深く話を聞いていました。第二回は、枝打ちや簡易的な間伐材の搬出について研修を行いました。

研修では、枝打ちを行わないとトビクサレの被害に遭い、スギの材価が極端に下がることや、枝打ち機械による枝打ちの実演を行いました。参加者は、森林整備の重要性を改めて確認することができたと思います。

## ◆展示林の整備

研修会を実施した場所を展示林として整備しました。列状間伐展示林整備では、三残一伐の方法で〇・二五杉整備を行いました。整備後は、看板を設置し、周辺森林所有者の経営意欲の喚起を期待するとともに、県や市の視察コースの一つとしてコースに組み込んでもらうことにしています。また、枝打ち・間伐展示林では、地域の人からは、「こんなにすばらしい林になったんだ」などの意見があり、整備の効果が目に見えた形で表れていることを感じました。

## ◆優良林分を認証

これまで、地域の条件、特性に応じた実用的な施業を實踐されている林家の優良な森林管理経営の林分を

認証し、近接する森林所有者の施業指標、施業の働きかけの場として活用して行こうと考えています。平成十九年度は、三カ所の林分を認証しました。

今回の取り組みがこれまで地道に森の手入れに取り組んできた人への励みになればと考えています。

今年度の取り組みとしては、新たに林内の活用を図るため、林内活用研修会の開催やサラリーマン土日林家に対して個別に指導していきたいと考えています。今後とも庄内林業研究会は庄内地域から荒廃林をなくすために活動を続けて行きたいと思っています。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



## 森の人紹介

### 小国の自然を子供たちに

舟山 功さん



小国在住の舟山功さんから頂いた名刺には、森林インストラクター、

山形県「源流の森」インストラプター、森林セラピーアテンドと普段の活動を語る肩書きが書かれています。森林インストラクターとしては、山形県内全域を活動範囲として、「源流の森」のインストラプターは飯豊町中津川、森林セラピーアテンドは小国町温身平と活動は多岐に渡っています。

舟山さんが、今のような森林に関する活動に興味を持った理由は、小さいさんの山を若い頃に引き継いで、手入れをしたことが大きいそうです。そしてその山を今度は自分の子供達へ引き継ぐということから、発展して小国の自然を子供たちへ伝えたいと思うようになったそうです。でも当時舟山さんは、どうしたら

子供たちへ自分の思いが伝えられるか分からなかったそうです。

そんな頃、舟山さんは体調を崩して、四〇日ほど入院したそうです。

そのとき病室で見かけた森林インストラクターの記事と「やりたいことをやる。」という気持ちが重なって今に至るということでした。

「そのときやりたいと思ったことや活動が今できていますか？」という問いに対して、舟山さんは「そうですね。意外と上手くいっています。」とあっさり。流石です。

この森の人紹介で話を伺った時も、次から次と話が湧き出し、聞いていられる時間も忘れて引き込まれてしまいました。そんな舟山さんだから、小国町内の森林環境学習で、一度依頼があったところから、二度三度と頼まれるというのにも頷けます。

その舟山さんが、今暖めている夢は「地元小国で自然学校を開く事。」だそうです。忙しい活動の傍ら、その夢の実現に向かって着々と準備を進めているそうです。

これからも地域に根ざした舟山さんの活動に期待したいと思います。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

## 森の人紹介

### こだわりの家作りを実践！

一級建築士 鈴木 悦郎さん



「地材地住」こだわりの家づくりを目指し、森林組合、製材所、建

築士、大工職人たちが連携し設立した「地元の無垢材にこだわりの家づくり研究会」の会長である鈴木悦郎氏に、家づくりへのこだわりについて聞いてみました。

「私は、今年で五十八歳になります。これまで年齢と共に変化してきました。只々憧れを求めて提案した二十代・現実とのギャップに苦しみ、むしろそれを楽しんだ三十代・やつと自分なりの形が見え始めた四十代

自分にも、他人にもこれから残すものを提案し始めた五十代。そんな五十代半ばに研究会の仲間と巡り会いました。そしてこの出会いが、自分が探し求めていた残さな

ければならないものを明確に教えてくださいました。それはとても大げさかもしれませんが、我々の故郷である地球であり、日本であり、そして山形であり、未来を担う子ども達であり……語れば語るほど残さなければならぬ物が見えてきた気がします。そんなことを考えると、それに向かって、仕事を通して、我々に何が出来るか、何を為すべきか、そんな漠然とした想いを、厳しい現実のなかで、少しでも形として応えなければならぬと思っています。

そして、その想いを見失わなければ建築士という職業を失うことは無いと思います。また、木材を知り尽くした製材所、伝統の技を受け継ぐ大工職人など研究会のメンバーも同じ想いだと感じています。『そんな熱い思いの仲間が集まった研究会で、あなたも本物の山形の家を造りませんか？（村山総合支庁森林整備課）』

#### 「研究会」のメンバー

(株)鹿野設計事務所	鹿野 克己
鈴木悦郎設計事務所	鈴木 悦郎
関設計	関 清
(有)山口建築研究所	山口 修
T A 環境ネットワーク	田口 重樹
(有)佐竹工務店	佐竹 正司
(株)たくみ	佐藤 靖之
(株)丸友製材	阿部 利則
逸見木材(株)	平間 利一
西村山地方森林組合	古澤 良彦

## 金山町森林組合の取り組み事例

金山町森林組合では、農林中央金庫の八十年周年記念事業（通称「フロント八〇」）により、町内の柵沢ダム周辺の森林整備等を実施しています。今回はこの取組について紹介します。

### ◆事業の概要

農林中央金庫では、創立八十年周年を記念し、荒廃森林の公益性を発揮させる活動に対し、平成十七年より事業の公募・助成を実施しています。金山町森林組合では、柵沢ダム周辺の森林整備等について事業採択を受け、平成十九年度に森林整備等を実施しました。

### ◆森林の状況

柵沢ダム周辺の森林は、地区共有林及び個人所有林で、関係者数百五十余名・面積計百六十ヘクタール余りになります。以前は採草地・薪炭林等として利用されていましたが、近年は森林整備が行われなくなっており、荒廃が懸念される状況になっています。森林整備が行われなくなったのは、所有者の高齢化による人手不足・不在村所有者の増加・林業

採算性の悪化等の複数の要因があり、個々の所有者だけで森林整備を実施するのは困難と考えられました。このため、本事業では以下の目標を設定しました。

- 一 所有者を組織化したうえで、森林の管理を外部（森林組合等）に委託する体制（管理組合）を作る。
- 二 適切な森林整備を推進するため、域内の森林を経営管理する経済林と保存する天然林に区分し、森林の利用目的を定量・計画化する。



熱が入る関係者によるミーティング

経済林は長伐期を基本にした山づくりを行い、作業路網を整備することで育林・伐出コストの低減を図る。

### ◆具体的な森林整備の内容

- ・森林の現況調査（区域の明確化）
- ・全域約百六十ヘクタール
- ・作業道等の補修・開設
- ・約一万三千メートル
- ・森林整備
- ・スギ・広葉樹の間伐約六十五ヘクタール
- ・スギ間伐材積約四百五十m<sup>3</sup>
- ・広葉樹間伐材積約三十一m<sup>3</sup>

### ◆実施の効果について

- ・森林組合が所有者の管理組合から長期の経営管理委託を受けて森林整備



森林組合による森林整備の実施状況

備を実施する体制ができたため、現況に応じた持続的な森林経営が可能になった。

- ・経済林と定めた区域ではゾーニングを行い、作業道を整備し計画的な森林整備を図ることにより、適期の施業・利用間伐等資源の有効活用が可能になった。

今回この事業を導入することにより、今まで放置されていた森林の持続的な経営を実施するための土台づくりができたと考えています。柵沢ダム周辺の森林は地域の大切な資源であり、今後とも適切な森林整備が実施されることが期待されます。

〔最上総合支庁森林整備課〕



守られる柵沢ダム湖とその風景



## 長坂(新庄市)予防治山工事完成

治山工事で確保した  
児童が安心して通える通学路

(工事完成状況)

### 一 はじめに

平成十八年七月二十八日の梅雨前線豪雨により、国道四十七号線沿いの山腹斜面が、長さ百五十m、幅十五mにわたり崩壊しました。幸い国道脇に杉林があったため約二十m手前で土砂は止まり通行止めまでには至りませんでした。

この災害について、県単独事業及び予防治山事業で復旧工事を実施したので紹介します。

### 二 安全対策について

国道四十七号線の歩道は、本合海小学校児童の通学路になっていることから、市を通して警察・小学校・

地域住民に対して注意を喚起しました。

また、国土交通省に対して歩行者及び通行車両の安全確保を依頼した結果、歩道に大型土嚢を七十m区間に渡り設置して頂きました。

### 三 対策工事について

平成十八年度は、通学路にもなっていることから、直ぐに着手できる県単独事業で末端に大型フトン籠土留工・排土工を施工し、土砂の流出を防止しました。平成十九年度は予防治山事業において、コンクリート土留工二基、補強土工七十八m、植栽工、緑化工等を施工しました。

### 四 おわりに

関係者各位のご協力により工事が無事完成したことに共に、安心して通える通学路が確保できたことに感謝申しあげ、紹介を終わります。



山腹崩壊状況



## 三日町(大蔵村)なだれ防止林造成工事

なだれによる通行止めからの  
開放を目指す治山工事

なだれ発生状況(排雪後)

### 一 はじめに

平成十七年十二月の大雪によって、なだれが発生し、村道「稲沢藤田沢線」が埋没し、一時通行止めとなりました。このため、なだれ防止林造成事業で、工事を実施したので紹介します。

### 二 これまでの対策工事

当該地は、以前からなだれが発生している箇所であり、昭和六十一・六十二年度に予防柵工十一基、階段工三段、植栽工を施工しました。今回のなだれは斜面右側で予防柵工の無い箇所からの発生でした。

### 三 対策工事について



なだれ発生防止に力を発揮する予防柵

当該地の積雪深は三・五mで斜面角度は三十七度から四十七度ときつく、表層なだれと全層なだれ両方の発生が想定されました。それを受け対策工事は、森林の造成とそれを補完する予防柵工六基を計画し、なだれ災害の予防と軽減を図ることを目的としました。

平成十九年度に予防柵工三基を施工し、本年度は森林の造成と予防柵工三基を計画しております。

### 四 おわりに

本年度の事業完成を目指しており、完成後はなだれ災害から開放され、安全・安心な通行が可能になることを期待して、紹介を終わります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

# 校庭樹配布事業・ふれあい森林教室助成事業を実施

## はじめに

庄内地方林業振興協議会では、緑の募金グリーンプラン事業の一環として、校庭樹配布事業、ふれあい森林教室を実施しています。二つの独自事業について紹介します。

### 一 校庭樹配布事業について

本事業は次世代を担う児童、生徒の学びの場である学校敷地を緑豊かで潤いのある環境とし、植樹行事とおして、児童、生徒の緑化意識の向上を図ることを目的とし、事業を進めています。

事業内容は、管内の各市町緑化推進委員会を通じて、植樹を希望する小学校、中学校に対し、希望の樹種の苗木を配布し、植樹行事を実施してもらいもので、各学校の学習、授業の一環として、また、校庭の緑化等に活用され、これまでの実績は次のとおりとなっています。

### 平成十七年度からの事業実績

- ◆平成十七年度
  - ・鶴岡市立第五中学校  
ハナミズキ・ヤマモミジ・ナンテン計五本
  - ・鶴岡市立西郷小学校  
ソメイヨシノ計五本



校庭樹を植樹する児童たち

- ・鶴岡市立櫛引南小学校  
ポプラ・ヤマモミジ・ハナミズキ他計五本
- ・酒田市立八幡小学校  
ブルーベリー・グミ計四本
- ・遊佐町立蔵岡小学校  
ソメイヨシノ・ケビ・ブルーベリー計十一本
- ◆平成十八年度
  - ・鶴岡市立温海中学校  
ケヤキ・ヤマボウシ計二本
  - ・遊佐町立吹浦小学校  
ソメイヨシノ計十二本
  - ・遊佐町立蔵岡小学校  
ハナミズキ計四本

### ◆平成十九年度

- ・鶴岡市立小堅小学校  
ミズナラ、コナラ計四本
- ・鶴岡市立西郷小学校  
ソメイヨシノ計六本
- ・鶴岡市立朝陽第六小学校  
ユリノキ計四本
- ・遊佐町立遊佐小学校  
ソメイヨシノ計八本

### 二 ふれあい森林教室助成事業

本事業は、森林や木のぬくもりにふれあうことにより、県民の森林・林業に対する理解を得、森林環境の保全への意識、緑化意識の向上を図ることを目的としています。本協議会では、各市町緑化推進委員会に対し、募集を行い、これまで、森林・木工・料理教室等が行われ、これまでの実績は次のとおりとなっています。

### ◆平成十八年度

- ◆鶴岡市緑化推進委員会
  - ・野外料理教室  
場所 森林公園かじかの里
  - ・森林木工教室  
場所 鼠ヶ関小学校体育館

### ◆平成十九年度

- ◆酒田市緑化推進委員会
  - ・森の恵み教室  
(地元きのこを使った料理教室)  
場所 酒田市総合文化センター

### 遊佐町緑化推進委員会

- ・あつげさんめまわり・クラフト村(木工教室等)  
場所 遊佐町立体育館
- ・遊佐町クラフトフェスティバル(木工教室等)  
場所 しい自然館



ふれあい森林教室で木工クラブを体験

### おわりに

これまで、校庭に植樹した苗木は七十本を越えました。両事業とも小規模な事業ではありますが、緑化の芽は着実に育っています。

本協議会では、今年度も管内の小中学校等を対象に、両事業の募集を六月に開始する予定です。学校の授業や校庭の緑化、地域のイベントに御活用下さい。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



小国町の市野々地区には、樹齢二百年を超える「飛泉寺のイチョウ」（昭和五十七年三月三十一日 町指定天然記念物）があり、旧越後街道の宿場町だった市野々の象徴ともなっていた。このイチョウは、横川ダム湖に沈む予定地にあつたが、地元民の救済要望を受けた横川ダム工事事務所が移転作業に取り組み、平成十八年に重さ三百トンの巨木を水平距離百メートル、高低差九・三メートルの高台への移設が無事終了した。高さ二十五メートル、根元幹周り九メートル、枝張りが、東西二十五メートル、南北二十五メートルの堂々たる姿のこの「飛泉寺のイチョウ」は、これからも地域のシンボルとして大事に守り育てられていくでしょう。

〔県森林協会〕



（案内略図）



公共木造施設 55

田井地区  
ふれあいセンター

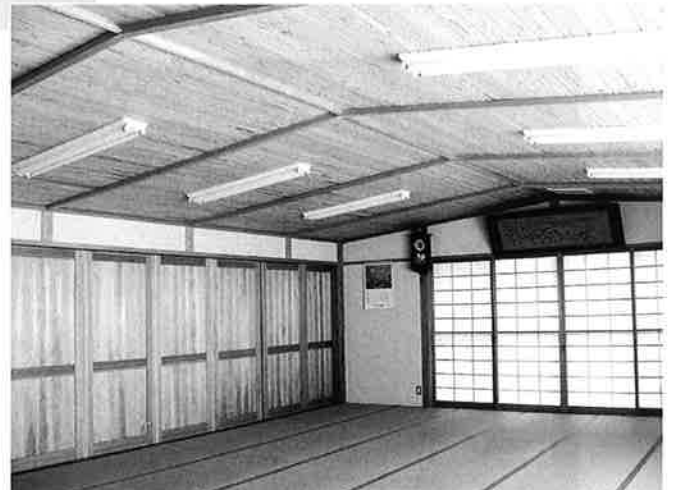
河北町大字田井字荷渡

完成年度 平成15年度

延床面積 415.97㎡

構造 木造平屋建て

特徴 この施設は、田井地区の地域農業管理施設として整備された施設で、木材をふんだんに使用することによって親しみやすさ・やわらかさのイメージを出している。内部の天井及び壁面に木材を使用し、木製家具や建具部分にも同様の木材を使用して一体感を表すなど、地域の方々からも好まれるよう配慮された施設である。



# 体験プログラムのフィールドに葉山森林公園を選定!

## 募集人員を超えるモニターの応募者

### ◆はじめに

森林やまがた一〇号で事業の目的及び昨年度の実施状況について報告しましたが、昨年度に引き続き今年の第一回目を長井市の葉山森林公園で実施したので、その概要をお知らせします。

### ◆実施箇所の概要

葉山森林公園は、長井市街地の北西五・五キロメートルの白鷹町との行政界に位置し、平成十一年度から平成十四年度まで生活環境保全林整備事業として三十一ヘクタールの森林を対象に植生や歩道の整備を行っています。森林散策に利用できる歩道はルートあり、体力に応じて選択することが可能です。また、葉山登山口になっていないことから、森林散策に飽き足らない人にも幅広く利用が可能となっております。

体験プログラムは、多くの方に利用し易く、癒し効果も高い二・五キロメートル程度で三時間のルートを選定し実施しました。

### ◆体験事業の実施

平成二十年五月三十一日(土)の小雨模様の爽やかな緑の中を、モニター参加者二十六名と四名の案内人と四名のスタッフで実施しました。モニター人数は昨年に引き続き、

林内の静寂を保ちつつ、案内人一人がサポート可能な五名程度とし総勢二〇名を予定していましたが、締切り期限後にもモニター参加希望者があり、第二回目に廻ってもらおう等、大変申し訳ない思いでありました。



観察の園性湿



入記アンケートでの観創夢兎

プログラムのルートでは、ホウチヤクソウ、スマシ、ヤブニンジン、クリンソウ等の草花がモニターを出迎えてくれました。

兎夢創観を出発し、樹齢数十年のスギ林を通り過ぎた葉山登山口では案内人から葉山信仰と、このところ話題の多い大相撲から行司についての説明があり、葉山信仰について改めて認識を深めさせていただきました。マツとスギの異種が結合し、仲良く成長している「相生の松」の観察後は、スギの大木の周辺で俳句をひとひねりしました。

「相生の松」から金剛山に到る尾根沿いの参道にはヤマツツジやウラジロヨウラクが急坂の登りのきつさを和まし、林内の比較的傾斜の緩い

箇所休憩を兼ね、鏡を利用して樹冠空間を観察しました。

金剛山山頂からは最上川の悠然たる流れに沿って形成された散居集落の説明を行い、その美しい田園風景にみとれ、涼風に吹かれておいしい昼食をとりました。

参道に戻りながらフィールドビンゴでモニターの親睦を深め、平成一二年に建立された草木塔の前で、草木塔の説明を行いました。

湿性園では水芭蕉の花を引継いで咲き誇るクリンソウやアヤメを愛で、水車とせせらぎを巡り、兎夢創観に戻りました。

五月末の気候としては肌寒い気温が、炊事場の隠れた迷水?(名水)を利用した温かいササ茶をより美味しく感じさせてくれました。

モニターのアンケート結果はプログラム内容等について概ね好評でありました。

### ◆おわりに

第二回目もすでに二十名を越える申込がありお断りせざるを得ない状況にありますが、昨年度実施した箇所の案内人養成講座を計画しますので、興味のある方はぜひそちらへ参加願ってください。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



## 第四回全国山菜文化産業祭 が西川町で開催されました

全国各地で山菜の振興に取り組んでいる関係者が一同に会し、情報交換や技術交流を行うとともに、一般の方々にも山菜に関する理解を深めていただくため、六月一日～二日に第四回全国山菜文化産業祭が西川町にて開催されました。

一日の昼食には、西山杉で作られた器に、西川産の山菜をふんだんに使った月山山菜ダイニングが準備され、参加者の好評を得ていました。

さらに、TBSはなまるマーケットなどにご出演されている料理研究



熱い議論が交わされたシンポジウム



月山山菜ダイニング

家堀江ひろ子氏による「健康は毎日の食卓から」山菜と健康についての記念講演が行われ、その

後のシンポジウム1では、地元 mountain vegetable restaurant の佐藤氏、東京で中華料理店を営む揚妻氏の三名がパネラーとなり、山菜料理のすばらしさや今後の可能性などについて、熱い議論が交わされました。

二日のシンポジウム2では、パネルに全国各地で山菜を活用した先進的な地域づくりを行っている方々が集まり、地域の特色を活かした山菜談義に花を咲かせていました。

本県の山菜生産額は年間十億円にも上り、わらび、ぜんまい、たらのめの生産額は全国第一位となっているなど、山菜は農山村地域の貴重な収入源であり、地域における雇用機会の創出にも大きく寄与していることから、今後も「安全で安心な県内の山菜」の生産振興を図って参ります。  
〔県森林課〕

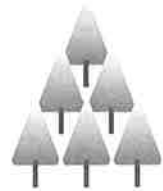
—多様な森林の整備を目指して—

財団法人 山形県林業公社  
990-0041 山形市緑町一丁目9番30号  
TEL 023-623-3505  
FAX 023-623-3530

## 緑のアドバイザー



### 財団法人 林野弘済会



秋田支部 山形出張所長 渡辺省三  
秋田支部 支部長 石岡保

〒990-0045 山形市松栄1-5-41  
TEL・FAX 023(647)8450  
〒010-0001 秋田市中通6-7-9  
TEL 018(832)4040 FAX 018(835)6837

※内容・日程・参加費など変更になる場合がございますのでご了承下さい。

# 建設コンサルタント、補償コンサルタント

測量・設計・施工管理



社団法人

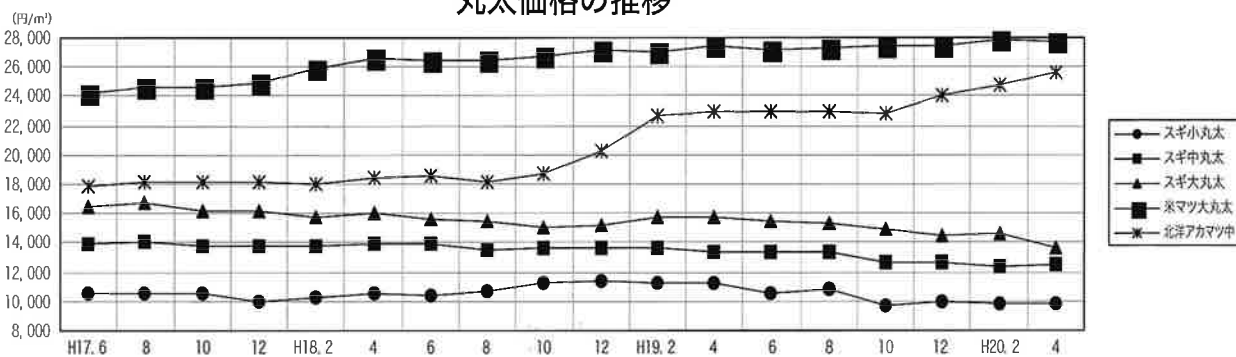
## 山形県林業コンサルタンツ

理事長 加藤 征伍

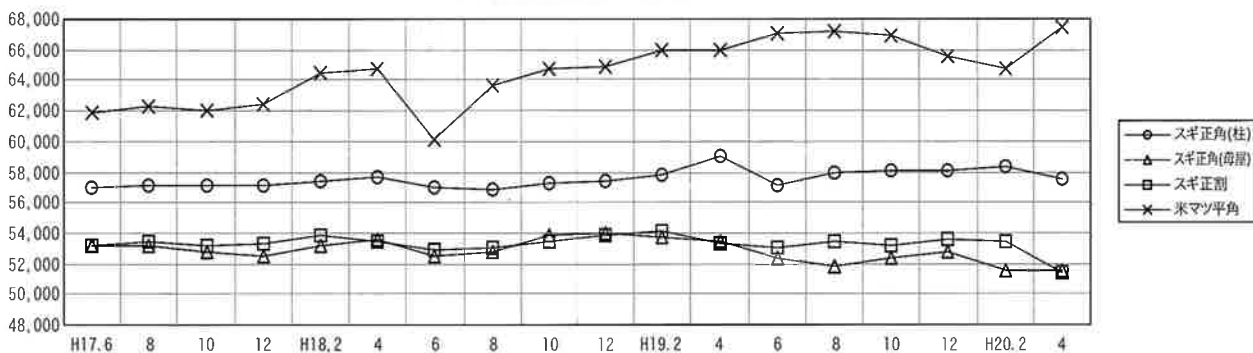
山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800

FAX (023)647-1801

丸太価格の推移



製材品価格の推移



### “森林づくりには「林道」が「土砂災害防止には「治山施設」が必要不可欠です

会長	東南村山支部長・堀川 隆志	羽陽建設(株)	北村山支部長・小野 勉	小野建設(株)
副会長	新 庄支部長・永井 敏行	永井建設(株)	鶴岡支部長・本間 敏英	鶴岡建設(株)
副会長	酒 田支部長・富樫 秀克	富樫建設(株)	監 事	・後藤吉比己 後藤建設(株)
	置 賜支部長・太田 政往	太田建設(株)	監 事	・花輪 完治 花輪建設(株)
	西 村 山支部長・芳賀 克雄	芳賀建設(株)		

◇事務所:山形市あさひ町16-21

「緑の募金」林野庁長官感謝状受賞団体 **山形県森林土木建設業協会**

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail:info@y-sinrin.jp http://www.y-sinrin.jp